



平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年10月27日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブルボン

コード番号 2208 URL <http://www.bourbon.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 康

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 財務管理部長 (氏名) 山崎 幸治

TEL 0257-23-2333

四半期報告書提出予定日 平成22年11月12日

配当支払開始予定日

平成22年12月7日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	47,163	△0.1	905	△17.4	760	△24.0	△143	—
22年3月期第2四半期	47,189	1.6	1,096	76.8	1,001	97.0	165	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	△5.97	—
22年3月期第2四半期	8.51	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	59,439	31,836	53.6	1,319.94
22年3月期	62,401	32,356	51.9	1,341.38

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 31,836百万円 22年3月期 32,356百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	6.00	—	7.00	13.00
23年3月期	—	6.50	—	—	—
23年3月期(予想)	—	—	—	6.50	13.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	105,100	2.9	4,200	11.5	4,100	14.4	1,850	18.7	76.70

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「2.その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）
(注)当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無

(注)簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年3月期2Q 27,700,000株 22年3月期 27,700,000株

② 期末自己株式数 23年3月期2Q 3,580,436株 22年3月期 3,578,470株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年3月期2Q 24,120,547株 22年3月期2Q 19,399,371株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続きを実施中であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	3
3. 連結財務諸表等	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	8
(5) セグメント情報	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日～平成22年9月30日）におけるわが国経済は、経済政策の効果や外需の牽引などによる緩やかな景気回復の兆しが見られたものの、欧州を中心とした海外経済の減速懸念から、株安や円高の傾向が強まるとともに、設備投資の抑制や雇用環境の悪化懸念などにより、先行きの不透明感が徐々に増す状況で推移いたしました。

菓子・飲料・食品業界は、デフレ基調が続くなかで低価格化が進むとともに、所得の伸び悩みなどから消費者の生活防衛意識は引き続き強く、慎重な消費行動が続きました。

当社グループは、食品製造企業として、安全・安心・安定および健康を基とした品質保証第一主義に徹し、実質価値の高い商品と消費者ニーズにお応えしたサービスの提供に努めてまいりました。消費者の低価格志向や価格に対する価値を意識した商品選別の傾向が一段と強まるなか、市場のニーズに機敏かつ柔軟に対応し、顧客満足度の高い商品開発の推進および地域に密着した需要を喚起する細やかな企画提案型営業活動の実施、サービスの提供に努めてまいりました。

春先の天候不順や梅雨明け後に記録的な猛暑が続いたことなどにより、菓子類の需要は影響を受けたものの、デザート品目が夏季商材として大きく伸張したのに加え、豆菓子品目、スナック品目、チューインガム品目、食品品目などが好調に推移し、売上高は前年同期並の推移となりました。

また、原材料価格やエネルギーコストの高止まりや販売競争の激化に伴う積極的な販促活動を図ったことなどにより営業利益、経常利益は前年同期を下回り、退職給付制度の改定に伴う損失の発生により四半期純損失となりました。

営業品目別の概況

菓子の合計売上高は44,464百万円（対前年同期比99.5%）となりました。

- ビスケット品目は、ロングセラーの袋ビスケット商品群、実質価値の高さで支持をいただいたファミリーサイズ商品群、品揃えの充実を図ったギフト商品群などが好評をいただいたものの、夏場の猛暑の影響を受け前年同期を若干下回りました。
- 豆菓子品目は、辛みを効かせた夏季向け商品やバラエティ豊かなミックス商品を発売し、リニューアルした味ごのみシリーズとともに好評をいただき前年同期を上回りました。
- キャンデー品目は、自動販売機での展開や販売ルート限定商品などに取り組みましたが前年同期を下回りました。
- デザート品目は、夏場の天候に恵まれたことに加え、前期末にリニューアルしたくだものいっぱいゼリーシリーズや食後の0（ゼロ）kcalシリーズ、ギフト商品群などが好調に推移し前年同期を大きく上回りました。
- 米菓品目は、チーズおかきの夏季向け商品「チーズおかき 焼のりわさび味」、柿の種をチーズクリームやチョコレートで包んだ「チーズ柿種アーモンドミックス」「チョコ柿種アーモンドミックス」など特徴ある新商品を発売いたしました。前期末にリニューアルしたプチシリーズ米菓商品群が好評をいただいたものの、既存品が伸び悩み前年同期を下回りました。
- スナック品目は、プチポテトシリーズに新味を加えるとともに、カレー油味の商品展開や販売ルート限定商品に取り組み前年同期を上回りました。
- チョコレート品目は、スリバードアーモンドと克蘭チアーモンドをミルクチョコレートにギッシリちりばめた「アーモンドラッシュ」を新しく発売いたしました。チョコレートとアーモンドの押し寄せるおいしさをスタイリッシュに表現したテレビコマーシャルを実施いたしました。小箱チョコレート商品群や袋チョコレート商品群をリニューアルいたしました。残暑の影響を受け前年同期を若干下回りました。
- チューインガム品目は、3種類の味を詰め合わせた粒ガム、アソート3シリーズの品揃えの充実を図るとともに、ソフトな食感とサイコロ型の形状が特徴のキュービィロップガムボトルの発売、販売ルート限定商品にも取り組み前年同期を上回りました。

飲料・食品・その他の合計売上高は2,698百万円（対前年同期比107.4%）となりました。

- 飲料品目は、自動販売機による展開に加え、夏場の天候に恵まれたことからミネラルウォーターを中心に好評をいただいたものの、競争激化のなか伸び悩み、全体では前年同期を下回りました。
- 食品品目は、お徳用サイズのミルクココア商品が好評をいただくとともに、冷たい牛乳に溶かして飲むボイセンベリー使用の粉末飲料やココア商品が好調に推移し前年同期を上回りました。
- 機能性食品品目は、カロリーの質に着目したバランス栄養食品のスローバーシリーズの展開に取り組みました。

- その他品目では、通信販売事業は商品の企画提案強化などにより継続して支持をいただきました。自動販売機事業は、多様な商品を総合的に取り扱うプチモールの新たな展開と設置台数の増加に伴い伸張いたしました。また、酒類販売事業は卸売免許の取得を進めました。

以上の営業活動により業績の向上に努めてまいりました結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、47,163百万円（対前年同期比99.9%）、営業利益は905百万円（対前年同期比82.6%）、経常利益は760百万円（対前年同期比76.0%）、四半期純損失は143百万円（前年同期 四半期純利益165百万円）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、59,439百万円となり、前連結会計年度末比2,962百万円の減少となりました。これは主に、季節変動による受取手形及び売掛金が減少したことによるものです。負債は、27,602百万円となり、前連結会計年度末比2,442百万円の減少となりました。これは主に、季節変動による支払手形及び買掛金が減少したことと、法人税等の支払および借入金の約定返済等があったことによるものです。純資産は、31,836百万円となり、前連結会計年度末比519百万円減少し、自己資本比率は53.6%となりました。

(連結キャッシュ・フローの状況に関する定性的情報)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、129百万円の収入（前年同期1,676百万円の収入、対前年同期比7.7%）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益177百万円および減価償却費1,670百万円があったことと法人税等の支払額1,403百万円があったことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは2,141百万円の支出（前年同期1,574百万円の支出、対前年同期比136.0%）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出2,140百万円があったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは569百万円の支出（前年同期1,402百万円の支出、対前年同期比40.6%）となりました。これは主に、借入金の返済による支出309百万円および配当金の支払額167百万円があったことによるものです。

以上の結果、当第2四半期末の現金及び現金同等物の残高は、前第2四半期末に比べ1,355百万円増加し、6,258百万円となりました。また、前連結会計年度末に比べ2,600百万円減少となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年5月6日に公表いたしました通期連結業績予想から修正は行っておりません。

なお、本日付で「平成23年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想と実績値との差異及び特別損失の計上に関するお知らせ」を公表しておりますのでご参照下さい。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

- ・ 会計処理基準に関する事項の変更

資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、当第2四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益は、それぞれ3百万円減少し、税金等調整前四半期純利益は24百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は16百万円であります。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 連結財務諸表等

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期 連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,248	8,849
受取手形及び売掛金	9,524	12,444
有価証券	10	9
商品及び製品	4,684	3,144
仕掛品	489	443
原材料及び貯蔵品	2,677	2,390
その他	2,023	1,833
貸倒引当金	△157	△175
流動資産合計	25,501	28,939
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,528	8,236
機械装置及び運搬具(純額)	8,951	8,794
その他(純額)	7,712	7,513
有形固定資産合計	25,192	24,544
無形固定資産		
のれん	2,193	2,266
その他	478	530
無形固定資産合計	2,671	2,797
投資その他の資産		
その他	6,274	6,289
貸倒引当金	△200	△169
投資その他の資産合計	6,073	6,120
固定資産合計	33,937	33,462
資産合計	59,439	62,401

(単位：百万円)

	当第2四半期 連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,406	9,118
短期借入金	2,385	2,447
未払法人税等	486	1,330
賞与引当金	1,015	917
返品引当金	77	79
その他	6,146	7,419
流動負債合計	18,517	21,312
固定負債		
長期借入金	1,657	1,905
退職給付引当金	6,083	5,527
役員退職慰労引当金	162	162
資産除去債務	16	—
負ののれん	32	33
その他	1,133	1,105
固定負債合計	9,085	8,733
負債合計	27,602	30,045
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	7,386	7,386
利益剰余金	24,512	24,824
自己株式	△577	△575
株主資本合計	32,358	32,671
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△373	△180
為替換算調整勘定	△148	△134
評価・換算差額等合計	△522	△315
純資産合計	31,836	32,356
負債純資産合計	59,439	62,401

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
売上高	47,189	47,163
売上原価	27,943	27,716
売上総利益	19,245	19,447
販売費及び一般管理費	18,149	18,542
営業利益	1,096	905
営業外収益		
受取利息	16	10
受取配当金	32	33
負ののれん償却額	—	0
その他	63	47
営業外収益合計	112	92
営業外費用		
支払利息	28	25
減価償却費	43	30
為替差損	114	169
その他	20	12
営業外費用合計	207	236
経常利益	1,001	760
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	50
その他	—	0
特別利益合計	—	51
特別損失		
固定資産処分損	40	24
減損損失	9	4
投資有価証券評価損	45	—
退職給付制度改定損	—	521
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	21
その他	—	62
特別損失合計	95	633
税金等調整前四半期純利益	905	177
法人税、住民税及び事業税	785	575
法人税等調整額	△245	△254
法人税等合計	540	321
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△143
少数株主利益	200	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	165	△143

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	905	177
減価償却費	1,652	1,670
のれん償却額	15	72
受取利息及び受取配当金	△48	△43
負ののれん償却額	—	△0
支払利息	28	25
為替差損益(△は益)	—	157
固定資産処分損益(△は益)	40	24
減損損失	9	4
投資有価証券評価損益(△は益)	45	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	21
売上債権の増減額(△は増加)	2,112	2,913
たな卸資産の増減額(△は増加)	74	△1,877
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,761	△704
賞与引当金の増減額(△は減少)	198	98
その他	△587	△1,029
小計	2,686	1,510
利息及び配当金の受取額	50	47
利息の支払額	△28	△25
法人税等の支払額	△1,031	△1,403
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,676	129
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,584	△2,140
投資有価証券の取得による支出	△4	△89
その他	15	87
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,574	△2,141
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	△1,000	△25
長期借入金の返済による支出	△240	△284
配当金の支払額	△97	△167
その他	△65	△92
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,402	△569
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	△19
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,302	△2,600
現金及び現金同等物の期首残高	6,206	8,858
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,903	6,258

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

当社グループは食品製造企業として同一セグメントに属する、ビスケット類、米菓類、飲料食品等の製造、販売を行なっております。当該事業以外に事業の種類がないため、該当事項はありません。

[所在地別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

[海外売上高]

前第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、その記載を省略しております。

[セグメント情報]

当社グループの事業は、食品製造企業として同一セグメントに属する、ビスケット類、米菓類等の菓子及び飲料食品等の食料品の製造・販売並びにこれらの付随業務であり、単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。